



第7回例会

平成19年8月22日(水)
サンパレス福島

本日のプログラム

- 1.開会点鐘 2.Rソング「奉仕の理想」 3.四つのテスト 4.来訪者紹介と会長挨拶 5.幹事報告 6.国道清掃協力・地区セミナー参加依頼 7.IAC大会報告 8.各委員会報告 9.閉会点鐘

今月・来月のプログラム

- 9月1日(土) 広報委員長会議(辰巳屋)
- 9月2日(日) 地区米山奨学会セミナー(郡山市 ビッグアイ)
- 9月5日(水) 創業記念・職業奉仕発表
- 9月10日(月) 県北第一区ガバナー歓迎晩餐会
- 9月11日(火) 牧公介ガバナー公式訪問

会長挨拶

武藤 正隆会長



こんにちは。ユーモアあふれる俳句を紹介します。
恋しさも 暑さもつれば 口開けて 中村草田男作
[恋は盲目となってホレたハレたの情痴沙汰となることがある]

自分の愚かさバカさ加減を夏の暑い日に口を開けて舌を垂らす犬と同じになるという悲しさをユーモアを込めて作った俳句です。我がクラブ会員の中に、この俳句の本髄を意味よく理解した方が何人おられるか大変興味あるところです。

またまた職業奉仕とは何かを考えさせられる事件が起きました。

「白い恋人」という北海道の名物チョコレート菓子会社でした。

賞味期限の改ざんが中心ですが、加えて細菌の発生がさらに加わった事件です。口に入るものへの衛生管理も含めて緊張感が足りないと思います。

今度の事件で一つ大事に学ばなければならないと思うことは、慣れと慣習によって手を抜くと、思わぬ事態に陥ることを教えているように私には思えます。会社の運命をも左右しかねない大切なことであって、この事案に学ぶべきです。

もう一度四つのテストをじっくり学び、それを実行していくことが大切です。

会社の職業奉仕の大切なことを忘れることなく奉仕しましょう。

本日のお客様ご紹介



福島成蹊高等学校より、IAC担当教諭佐藤敦子様 芳賀安紗美様 斎藤里菜様 佐藤霞様をお迎え致しました。

IAC年次大会報告 喜古 勝弘 委員長

8月8日と9日の2日間、郡山自然の家にてIAC年次大会が開催されました。福島成蹊高等学校より参加いただき、本日も報告いただきます。

<主な内容>

- 一日目：開会式、日大工学部中村教授による講演会『福島の水環境～21世紀の市異質保全について』、フィールドワーク(グループエンカウンター、山登りなど)、ロールプレイングBafaBafa
- 二日目：牧公介ガバナー講演、ワークショップ分科会(過剰包装、地球温暖化、消費型社会、自動車社会)
IAC年次大会報告について福島成蹊高等学校の芳賀安紗美様と斎藤里菜様と佐藤霞様、佐藤敦子先生よりご報告を頂きました。



芳賀安紗美さんは、フィールドワークでの山登りから、困難な状況となったときにどのように切り開いていくのかといったチームワークの大切さや、体力のない弱者に対する思いやりなどを自然との関わりから学ぶことができたとの感想でした。また、ロールプレイングBafaBafaでは他を理解することの大切さや、そのためにも積極的に相手とのコミュニケーションが必要なことが分かったとの感想が聞けました。



分科会や講演会では、水は私たちににとってとても大切なものだと思えて知ることができ、いつまでもきれいにしなければならぬと感じたと、斎藤里菜さんからの感想にあるように普段は気にすることがほとんどない身近な水環境を考えること、分科会のテーマのような世界を取り巻く様々な問題点を話し合うことから関心を持つことができたとのことでした。



また、佐藤霞さんからは、初めて会った他校の生徒との体験を通してお互いを理解しあうことの難しさと大切さを学んだというご報告がなされました。
二日目に行われた分科会では、各



班によるまとめと発表がなされ、課題に対して理解することができ、さらには、何より友情を深めることができたとのこと報告でした。

最後に、IAC担当の佐藤敦子先生からは、最近ではあまり機会のない“汗だく”の学びの機会を与えていただいたとの感想を頂きました。ホスト校の岩瀬農業高等学校の生徒と先生方の心温まるおもてなし、充実した研修を目指した積極的な運営に対して感謝をし、また、二日間を通して参加した生徒の成長や他校との交流、先生ご自身にとっても勉強の機会となったことに対するロータリーへの感謝と生徒と共に、さらに活動を続けていきたいとの抱負を頂きました。